

建設業 46 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

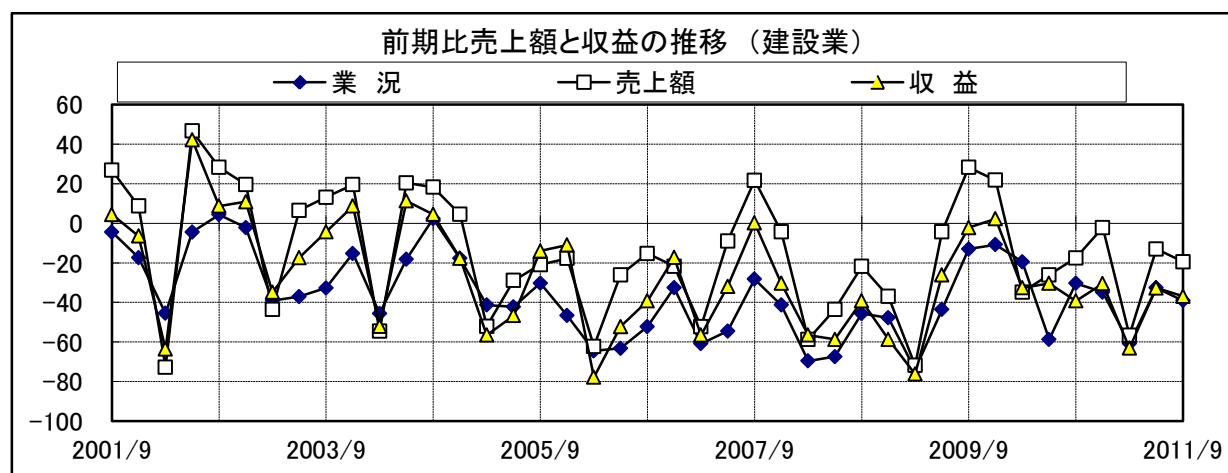
□ 景 況

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
業 況	-60.9	-32.6	-39.1	-47.9
売上額	-56.6	-13.0	-19.5	-30.4
収 益	-63.1	-32.7	-36.9	-41.3

6.5、4.2 ポイント悪化した。

今期の業況判断DIは△39.1と、前期比マイナス幅が拡大し6.5ポイント悪化した。全業種中、建設業のみが悪化の動きとなった。地区別にみると、静内、えりも地区で改善し、浦河、三石、様似、広尾地区で悪化している。

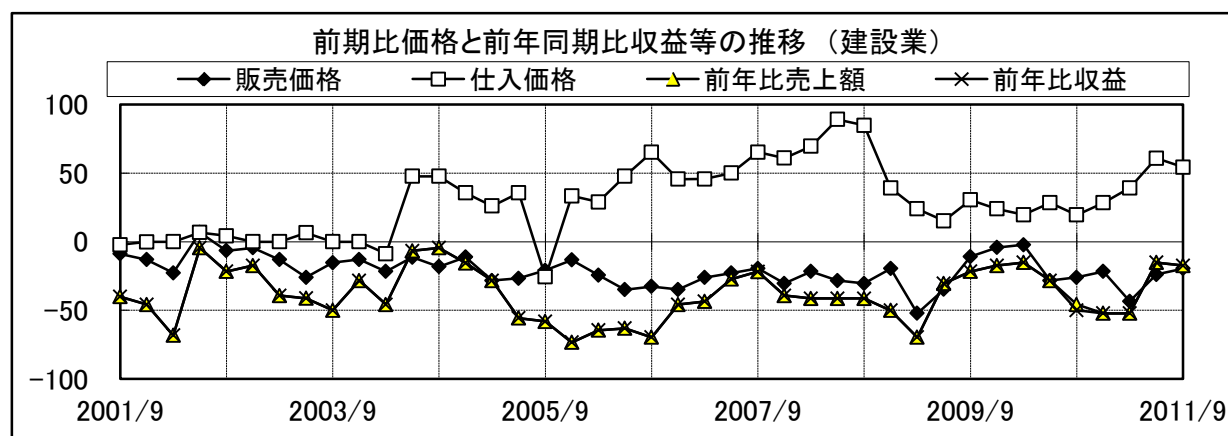
売上額、収益判断DIは、売上額が△19.5、収益が△36.9と、前期比それぞれマイナス幅が拡大し、



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
請負価格	-43.4	-23.9	-19.6	-19.6
仕入価格	39.2	60.8	54.3	30.4

請負価格判断DI(△19.6)は、前期比マイナス幅が4.3ポイント縮小し、価格低下基調を弱めている。仕入価格判断DI(54.3)は、前期比プラス幅が6.5ポイント縮小し、価格上昇基調を弱めている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
残業時間	-8.6	-30.4	-10.9	-15.2
人手状況	-8.6	4.3	8.7	2.2

残業時間判断DIは△10.9と、前期比19.5ポイント上昇し、残業時間が減少したとする企業割合が減った。

人手過不足判断DIは8.7と、前期比プラス幅が拡大し4.4ポイント上昇、人手過剰感を強めている。

□ 設備投資の動き

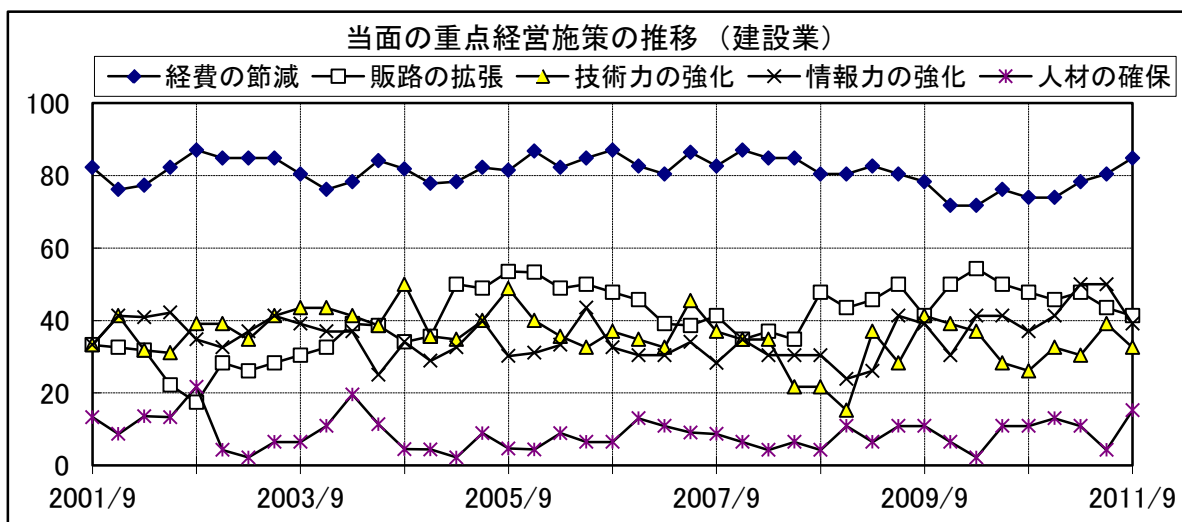
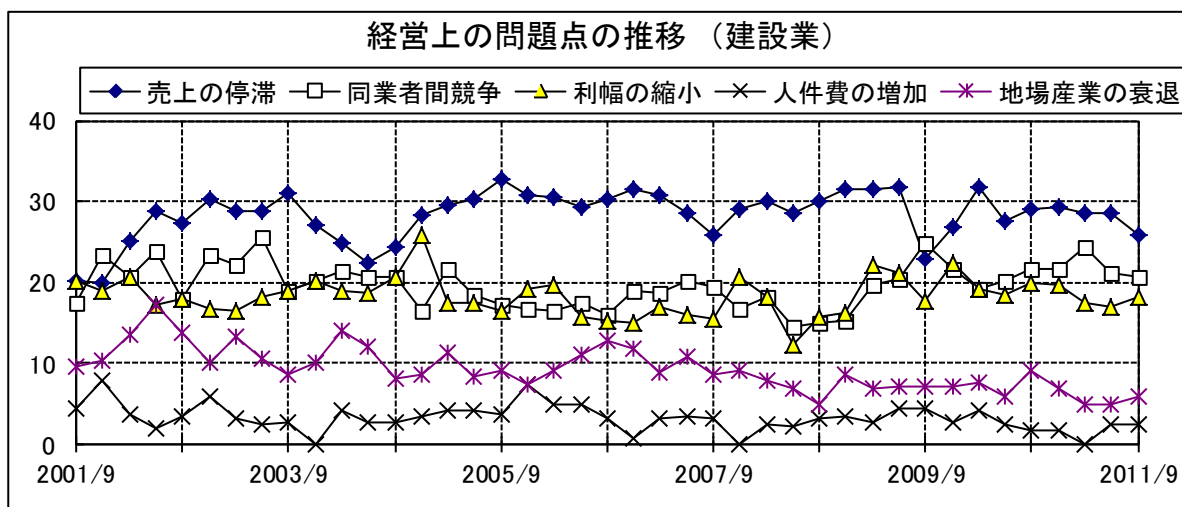
設備投資の充足感を示すD Iは2.1と、前期（0.0）比2.1ポイント上昇。適正と回答した企業は80.5%と、前期（74.0%）から6.5ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は21.7%と、前期（30.4%）比8.7ポイント下降、件数で前期の14社に対し10社の実施となった。来期予定は当期比2社減の8社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞減少」をトップに挙げ25.8%、次いで「同業者間との競合」20.8%、「利幅の縮小」18.3%、「材料価格の上昇」6.7%の順に続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ84.8%、次いで「販路を拡げる」41.3%、「情報力の強化」39.1%、「技術力を強化する」32.6%、「人材を確保する」（15.2%）の順となっている。



□ 来期の見通し

来期（平成23年10～12月期）の予想業況判断D Iは△47.9と、今期（△39.1）実績比8.8ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、今期実績比売上額が△30.4（今期△19.5）、収益が△41.3（今期△36.9）と、それぞれマイナス幅が拡大し10.9、4.4ポイントの低下見通しとなっている。

予想請負、予想仕入価格判断D Iは、請負価格が△19.6（今期△19.6）と横ばいで、仕入価格は30.4（今期54.3）と23.9ポイント低下し、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。

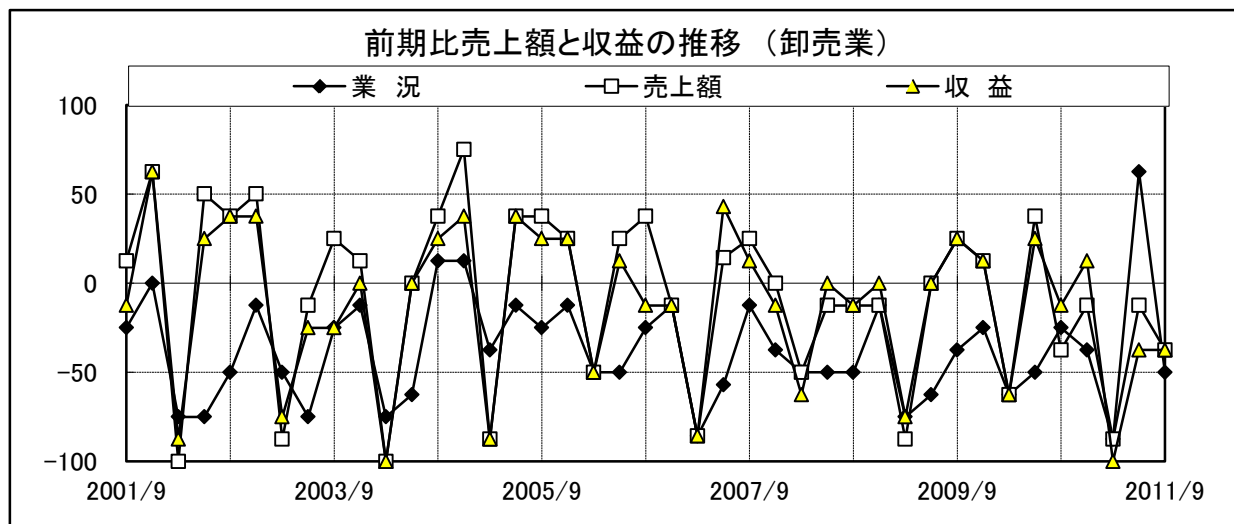
卸売業 8 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
業 況	-87.5	-62.5	-50.0	-62.5
売上額	-87.5	-12.5	-37.5	12.5
収 益	-100.0	-37.5	-37.5	12.5

今期の業況判断DIは△50.0と、前期比マイナス幅が縮小し、12.5ポイントの改善となった。地区別にみると、様似地区のみ改善、浦河、静内、三石地区は横ばいとなっている。

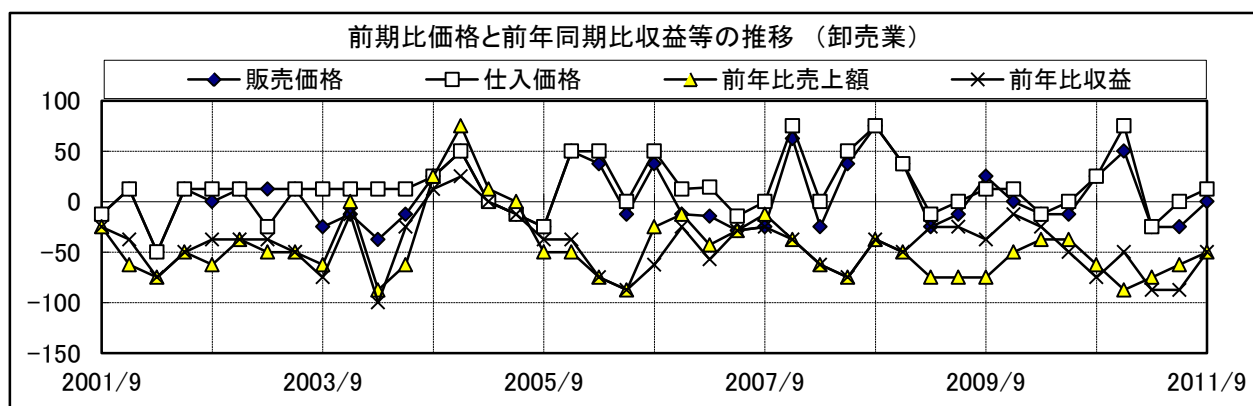
売上額、収益判断DIは、売上額、収益ともに△37.5で、売上額は前期比25.0ポイント低下、収益は同比横ばいの値となった。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
販売価格	-25.0	-25.0	0.0	12.5
仕入価格	-25.0	0.0	12.5	25.0

販売価格判断DI(0.0)は、前期比25.0ポイント上昇した。仕入価格判断DI(12.5)は、価格上昇基調に転じ、12.5ポイント上昇した。業種別にみると、農林・水産、食品で販売、仕入価格ともに上昇となっている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期実績	10～12 月 期見通し
残業時間	-12.5	-12.5	-25.0	12.5
人手状況	37.5	37.5	25.0	-12.5

残業時間判断DIは△25.0と、前期比マイナス幅が12.5ポイント拡大、残業時間が減少したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断DIは25.0と、前期比プラス幅が縮小し12.5ポイント低下するも、依然人手「過剰」超となっている。

□ 設備投資の動き

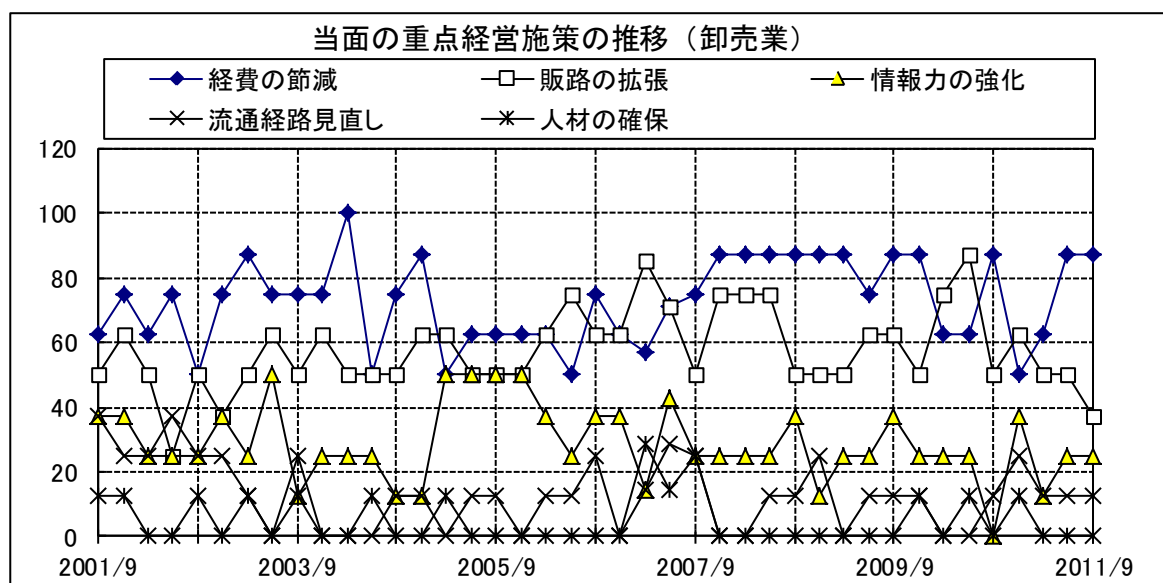
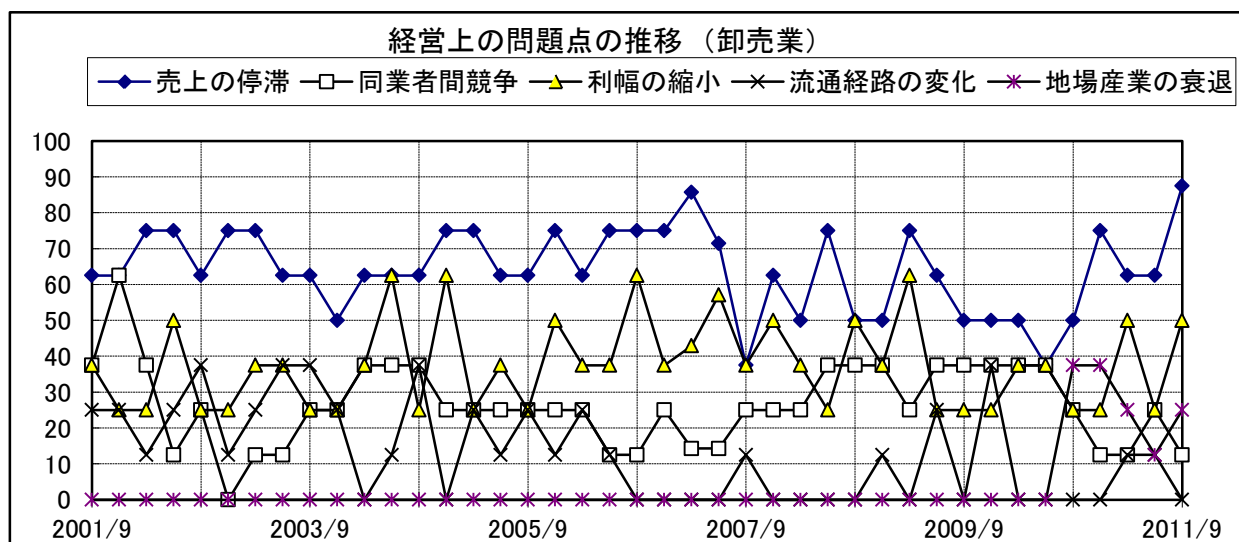
設備投資の充足感を示すD Iは12.5と、前期(12.5)比横ばいとなっている。適正と回答した企業は87.5%と、前期(62.5%)比25.0ポイント上昇した。

設備投資実施企業割合は50.0%と前期(12.5%)比37.5ポイント上昇、件数で前期1社の実施に対し4社となった。来期予定は当期比3社減の1社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」87.5%、「利幅の縮小」50.0%、「取引先の減少」37.5%、「地場産業の衰退」25.0%と続いている。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ87.5%、次いで「販路を広げる」37.5%、「情報力の強化」25.0%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期(平成23年10~12月期)の予想業況判断D Iは△62.5と、今期(△50.0)実績比12.5ポイントの悪化見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、売上額が12.5(今期△37.5)、収益が12.5(今期△37.5)と、今期実績比それぞれマイナス値からプラス値に転じ50.0ポイント上昇し改善の見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D Iは、販売価格が12.5(今期0.0)、仕入価格が25.0(今期12.5)、ともに今期実績比12.5ポイント上昇、それぞれ価格上昇基調が強まる見通しとなっている。